

琉球新報

距離を取って感染防ごう

第39947号

市町村の臨時休校判断(14日現在)

休校を延長(5月6日まで)

那覇市、宜野湾市、石垣市、糸満市(検討中)、沖縄市、うるま市、豊見城市、宮古島市、南城市、国頭村、本部町、恩納村、読谷村、嘉手納町、南風原町、北大東村、八重瀬町、竹富町、与那国町、久米島町

休校を延長(5月7日まで)

浦添市

15日に決定

今帰仁村、金武町、伊江村、北谷町、北中城村、中城村、西原町、与那原町、渡嘉敷村、南大東村、伊是名村

16日に決定

大宜味村、東村、宜野座村、粟国村

休校しない

渡名喜村、伊平屋村

※多良間村は未定。竹富町は4月21日、与那国町は同15~17日は登校する。名護市は17日までに決定。座間味村は15日か16日に決定

浦添市は市のホームページでも休園を発表した。市内の小中学校の休校期間が5月7日まで延長したことについて、市長は「そのために保育所では必要な職員の数が確保できない場合もある」「集団感染を防ぐ」と説明した。家庭保育に伴い世帯の収入源などにも言及し、市の補助金などについても言及している。

小中休校、22市町村延長

新型コロナウイルスの感染拡大を受け、浦添市は20日から5月7日まで、市内の認可保育園を臨時休園する。対象は公立保育所、市立保育園、認定こども園、地域型保育事業所の計59園。市によると、臨時休園の対象となる保育園に通う園児は1日現在で4713人。親が医療従事者など、どうしても家庭保育が困難な場合は相談の上、園で預かる。14日に松本哲治市長が会見を開き発表した。県内22市町村は同日、公立小中学校で実施している一斉臨時休校の期間延長を決めた。(25面に関連)

新型コロナ 対象59園、園児4700人

浦添市、認可保育園休園

いない市町村は式もあつたため延期する。南城市は一部中学校の入学式を中止する。休校中、石垣市や浦添市などは教科書や課題を保護者に配布する期間を設けた。

17日までに決める。糸満市

名護市は、市内で感染が確認された12日を起点に少なくとも2週間程度の延長を決めた。具体的な期間は

5月6日まで延長する方針で、16日に決定する。私立学校では、興南中学校などがホームページで休校期間の延長を発表した。

基地外流出14万3000リットル

泡消火剤 日本国政府、立ち入り要請

米軍普天間飛行場の格納庫から化学物質PFOS(ビーフォス)を含む泡消火剤が漏れ出た問題で、防衛省は14日、基地外に14万3830リットル(200リットル入り)が流失したと明らかにした。全體の漏出量は22万7100リットルで、その6割以上が基地外の川などに流れ出た。河野太郎防衛相は同日の記者会見で、日米両政府が2015年に締結した「環境補足協定」に基づき、米側に基地立ち入りを求めたと説明した。同協定に基づく立ち入り要請は初めてとなる。(2、26面に関連)

防衛省によると、米軍が14日までに基地内で8万3270リットルを回収した。だが基地外に流出した泡消火剤は広範囲にわたっており、全てを回収するのは困難な状況にある。

県の謝花喜一郎副知事は同日、外務省沖縄事務所と沖縄防衛局のトップ2人を県庁に呼び、漏出事故に対応協議した。謝花氏が環境調査を要請したのに対し、



着いていたことを受け、海水を採取し浦添市の牧港漁港(大城直也撮影)